

# 2013年度 学部FD自己応募研究プロジェクト申請書

2012年10月26日提出. 2013年1月30日改訂版提出.

<b>プロジェクトテーマ</b>	eラーニング グッドプラクティス 共有プロジェクト
<b>研究対象</b>	教育手法の開発・研究に関するもの

	氏名		所属・職名	専門
<b>申請代表者</b>	樋口三郎	印	理工学部・講師	理論物理学
<b>共同研究者</b>	井ノ上 智啓	印	情報メディアセンター事務部・事務職員	情報メディアセンター事務部
	上原 徹	印	理工学部・実習講師	情報システム運用・管理
	高田 文彦	印	情報メディアセンター事務部・事務職員	情報メディアセンター事務部
	中谷 麻里	印	情報メディアセンター事務部・事務職員	情報メディアセンター事務部
	丹羽 奈緒子	印	情報メディアセンター事務部・事務職員	情報メディアセンター事務部

## 研究目的: 当該研究計画の目的について、記述してください。

本研究の目的は、本学の個々の教員がこれまでに得た eラーニングに関する事例・知識・経験の相互共有を行い、eラーニングのさらなる普及に寄与し、学生の学修環境をより効果的にすることである。

龍谷大学の eラーニング環境には、eラーニングシステム(LMS) ReLS, モバイル学習支援システム attend などの要素がある。両者は情報メディアセンターにより運用されている。

ReLS はオープンソース LMS Moodle に基づくシステムであり、2006 年度指定プロジェクト「教育と IT」から 2011 年度自己応募プロジェクト「本学での eラーニングの普及と革新」まで活用の探究と普及の努力がされてきた。attend は 2006 年度自己応募プロジェクト「携帯電話による出欠確認システムの試行」で開発が開始された本学独自のシステムである。

これらのシステムの利用普及はこれまで主に「垂直方向」の活動、すなわち先進事例の調査や、センター職員やサービス提供者、学外の専門家による知識提供という形で行われてきた。これは一定の普及をもたらしたが、さらなる普及が求められている。「垂直方向」の活動で伝えられる知識はシステムの機能や技術に重点があり、これらを利用してどのように教育・学修すると効果的かという視点には弱点があった。

そこで本プロジェクトでは、eラーニングを使用している教員とこれから使用しようとする教員が、教育の良好事例(グッドプラクティス)を互いに共有しあうことを促進する「水平方向」の活動を行う。最終的には、記録としてのグッドプラクティス集の作成の他に、数年スパンでの教員の eラーニングの教育使用の知識の増加、教員間の情報流通の増加、eラーニング利用授業数の増加をめざす。

なお、LMS のバージョンアップ、モバイル学習環境の変化など、近年の変化が大きい分野について限定的な「垂直方向」の活動も行い、年度内に「水平方向」の共有をあわせて行う。

**研究計画・方法:研究目的を達成するための研究計画・方法について記述してください。**

本プロジェクトは教員・事務職員からなり、いずれも現在または過去にeラーニングに関する業務に従事した者である。事務職員は担当業務に影響を与えない範囲で本プロジェクトに参画する。特に、大学教育におけるeラーニングの普及・運用に関する知見を提供する。

「水平方向」の活動

1. eラーニングユーザミーティングの実施

ReLS, attend をすでに使用している学内の教員(非常勤講師を含む)を招き、グッドプラクティスについて他の教員向けに語っていただくミーティングを複数回開催する。学内に公開とする。付随して、参加者が自らの利用方法について相談する時間を設ける。非常勤講師への講師謝礼を計上する。

2. eラーニング研修機会の提供

各学部の求めに応じて、FD研修会などの講師として、教員の立場からeラーニングについて自らのまたは共有されたグッドプラクティスを説明しうる教員を紹介する。

3. eラーニンググッドプラクティス集の作成

ユーザミーティングで得られたグッドプラクティスをまとめて紹介するWebページを作成する。

4. ReLS モデルコースの作成と提供

既存のeラーニングユーザの知見を元に、基本的な部品をあらかじめ配置したeラーニングコースを用意し、新規利用者がコピーして利用できるように共有する。これは、eラーニング使用開始時の労力と学習コストを削減するものである。

「垂直方向」の活動

1. 商用モバイル端末利用教育支援システムC-learningの試用・評価

attendと類似した機能を持つ商用のシステムが普及しつつある。これを試用し、attendの授業内活用方法に対する知見を得て、学内のattend利用者と共有する。またattendの今後の運用・開発に対する示唆を得る。

2. attend利用学生アンケート

attendの利用学生に対するアンケート調査を実施し、attendの授業内活用方法に対する知見を得て、学内のattend利用者と共有する。またattendの今後の運用・開発に対する示唆を得る。

3. Moodle2.4およびそのモバイル端末対応機能の試用・評価

ReLSが基盤とするMoodleは、2013年度にバージョン2.4に更新される。移行期にはテスト環境が提供される予定である。バージョン2.4を先行してテストした教員をeラーニングユーザミーティングに招くなどして、移行方法や2.4の新機能利用のグッドプラクティスを共有する。また、国内のMoodleユーザグループの会合または学会に参加することにより、ユーザ視点からのバージョン2.4移行のための知見、およびモバイル端末対応についての情報を収集する。そのための国内旅費を申請する。

**研究の進捗状況の報告方法:当該研究の進捗状況を発信する方法について、簡潔に記述してください。**

- 研究プロジェクトのWebページを設け、随時更新することにより発信する
- eラーニングユーザミーティングそのものが発信機会である
- 授業使用中のLMSのコースをゲストに対し公開する
- C-learning 使用授業は、学部が授業公開を行う際に公開する(ただし、90分の授業全体を公開しても、本研究プロジェクトに関わる部分は短いことが想定される)

## 実施期間

### A.単年度終了

**研究実施日程:**当該研究についてどのような日程で実施するのか具体的に記入してください。

「垂直方向」

- 2013年4月-1月 商用携帯電話利用教育支援システムであるC-learning を授業で試用, 評価する
- 2013年7月, 2014年1月 attend について学生アンケートを実施する
- 2013年4月-9月 Moodle 2.4およびそのモバイル端末対応機能を授業で試用, 評価する
- 2013年8月(予定) 国内のeラーニング特にMoodle研究会に参加して情報を収集する

「水平方向」

- 2013年4月, 9月 ReLSモデルコースを作成・更新する
- 2013年9月-1月 eラーニングユーザミーティングを実施する
- 2013年9月 提供可能なeラーニング研修について, 各学部等に情報を送る
- 2014年2月 グッドプラクティス集を Web上で公表し, 学内で共有する

**期待される成果:**当該研究を実施することにより期待される成果について記述してください。

- eラーニングユーザの役に立つグッドプラクティス集が作成される
- eラーニングユーザ数が増加し, グッドプラクティスがユーザ間で共有され, ユーザ間の情報交換が活発になる
- モバイル学習支援環境およびMoodle 2.4についての知見が新たに得られユーザ間で共有される